

認知症になっても安心して暮らせる町づくりを！

認知症は「もの忘れ」と「判断力低下」がおこる脳の病気です。現在日本では認知症の患者が150万人いるとされ、とても身近な病気となっています。

物忘れは認知症の始まりなの？

以前までは「もの忘れはボケの始まり」と言われてきましたが、「もの忘れ」と「認知症」とでは、まったく別のものであるということが分かってきました。

例えば、朝ごはんの内容を思い出せない場合は「もの忘れ」、朝ごはんを食べたこと自体を忘れている場合は、「認知症」の可能性が高いのです。

早期発見・早期治療が大切です！

にも、「あれっ？」と思ったら、早めにかかりつけ医や西伯病院の物忘れ外来（水曜日の午後・要予約電話662211）などに相談しましょう。

安心して暮らせる南部町に

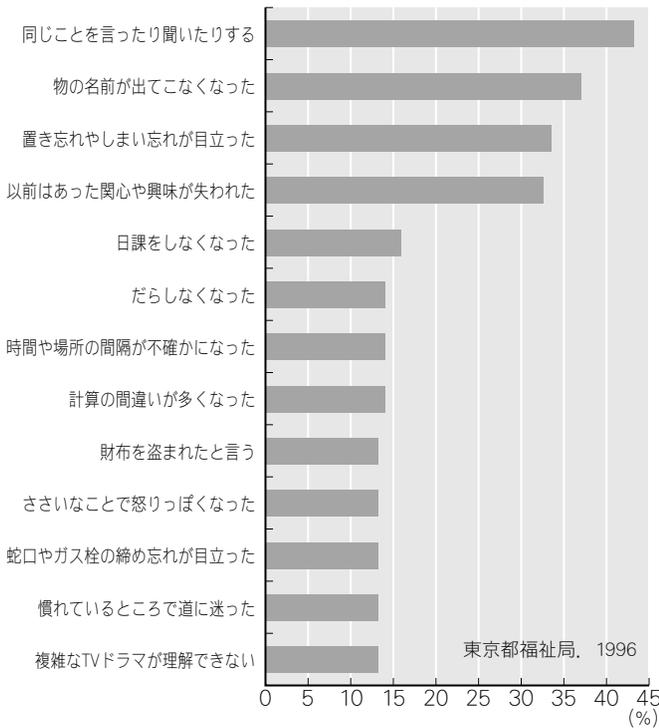
認知症の人が暮らしていく時に、その人の不安感や不都合を軽くする関わりをすると、普通の生活に近い生活をするができます。そこで、町では認知症の方や家族の応援者となって地域で活動してもらうために、平成18年10月に、「町民認知症サポーター養成講座」を3回シリーズで開催しました。

また、民生児童委員協議会も、「認知症についての正しい理解と対応の普及」の活動をしていますので、気軽にご相談ください。

認知症サポーターになりませんか

町では多くの方に認知症サポーターになっていただく機会を増やしていきたいと思えます。講座開催希望の地区がありましたら健康福祉課にご連絡ください。

■家族が気づいた認知症の初発症状



認知症の中には、早期の治療で改善する場合や、徘徊など介護が大変な状況に至らないようにできるものもあることが分かってきました。本人や家族がづらい思いをしないため

この講座で、民生委員や申し込みされた参加者34人が、認知症についての症状や対応の仕方などについて学習しました。



認知症の方への対応について 伯耆の国 植田さんの話を聞く